

平成 29 年(2017) 度事業報告書

市民ボランティアネットワーク石津川に鮎を

1、事業期間

平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

2、事業の概要と成果

市民ボランティアネットワーク石津川に鮎を（以下、「本会」と称す。）は鮎をシンボルとして、人々に身近な川を取り戻そうと大阪府堺市にある母なる川「石津川」とその水系を対象として、個別の NPO などが行ってきた活動を連携して進めるために、平成 17 年 2 月堺市内で結成された緩やかな団体・個人のネットワーク組織である。

活動拠点を堺市総合福祉会館 2 階市民活動サポートセンターにおき、メールボックスやロッカーなどを借り受け、「石津川に鮎を」の事務局所在地もここに定めている。

これまで例会の開催やイベントの開催、各種イベントへの参加、各種の PR 活動、アドプトリバーの推進、小学校総合学習への出前講座、石津川におけるフォーラムの開催などを行ってきた。

神石地区剣先(石津川、百済川合流地点)では、環境改善に主導的な役割を果たし、石津鮎講座を開始し、河川ウォッチングや生物調査、水質調査などと合わせて学術的に石津川に関する知見を得る一方で、河川清掃にも活動の域を広げることに挑戦してきた。

平成 21 年 5 月に初めて堺市の定期調査で鮎が発見されたのを機に、一気に活動のモチベーションがあがった。思いのほか早いペースで鮎が戻ってきており、活動のさらなる進展が期待されるようになった。

平成 26 年には長年の懸案であった、宮下町の四手湯井堰に水辺の小わざを利用した魚道が完成し、さらに上流に鮎を始めとした生きものが遡上することを期待して活動が活発になっている。

また、平成 30 年 2 月には、石津川本川の改修に伴い大鳥(湯)井堰(鋼製倒伏堰)の半川分が撤去され、袋詰玉石工などで段差が緩和された。河川工事においても、袋詰玉石を用いた護床安定工事などが施され、アユを始めとする淡水魚類等の遡上や生息の可能性を高めている。今後は石津川再生の懸案地域である毛穴地区への多様な生物の遡上が大いに期待できよう。

またホームページの運営を行い、本会や石津川の様子などを発信する一方、FB(フェイスブック)による発信にも手懸けている。

3、事業の実施状況

主な平成 29 年度事業の実施状況を以下に示す

1. 定例会や企画会議の開催

会の活動を活性化させるため、月例の定例会を開き、河川に係る情報提供や今後の活動についての意見の調整、各種研修会、イベントの企画・計画などを行った。

2. 石津川水系における生き物調査

○1/27sat 法道寺川、第 2 豊田川にて生物調査を実施した。

3. 多自然川づくりの調査・研究

○OMOROI さかい撮影部による、百済川アユ撮影会を実施。

○7、8、9月、百済川朝日橋を中心とした鮎の生息状況の調査を実施した。

4. 川の清掃活動

○6/4sun、12/3sun アドプトリバー・鶴田町(鶴田町自治会、市民ボランティアネットワーク石津川に鮎をで構成)を大阪府鳳土木事務所協力のもと実施した。

5. イベントによる啓発・広報活動

○10/28sat 堺市総合福祉会館に於いて実施の、第15回さかいボランティア・市民活動フェスティバル(市民活動パネル展)に参加。

○7/29sat 昨年に引き続き、私の水辺泉北地域交流会体験学習 in 槇尾川(上流、和泉市仏並町)に参加。会員の太田氏が水生生物観察の指導を行った。

○2/3sat 泉北府民センターで行われた「第16回私の水辺大発表会泉北地域交流会(水からつながる何でも博覧会)(主催:私の水辺泉北地域交流会実行委員会、事務局大阪府鳳土木事務所)」に参加。パネル展示や電子パネル(PC&プロジェクタ)と石津川の生きもの展示、市民団体発表などを行った。ネットワークからは、葦船学校が同時出展した。

6. その他

○他団体等より協力依頼のあったもので、本会の趣旨に合意し、実現可能な活動

○ホームページ等の管理

会員相互の情報交換をより効率よく行うため、また本会の活動を広くPRするため、インターネット上にホームページを平成18年度に開設している。<http://shizuavu.web.fc2.com/>

以上